

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

東広島市立西条小学校 4教科型

2 学校の概要

学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	112	107	131	146	147	171	814	42	856
学級数	4	4	4	5	5	5	27	6	33

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	A	A	A	推進	専科	A	専科	A	A	A	A	A
5年2組 (担任：B)	B	B	B	B	推進	専科	B	専科	B	B	B	B	B
5年4組 (担任：C)	C	C	C	C	推進	専科	C	専科	C	C	C	C	C
5年5組 (担任：D)	D	D	D	D	推進	専科	D	専科	D	D	D	D	D

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：E)	E	E	E	E	推進	専科	E	E	E	E	E	E	E
6年3組 (担任：F)	F	F	F	F	推進	専科	F	F	F	F	F	F	F
6年4組 (担任：G)	G	G	G	G	推進	専科	G	G	G	G	G	G	G

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

② 【多面的な児童理解】

- ・専科グループで定期的な情報交換の場を設け、児童の学習や学校生活の様子から見取ったことを話し合いながら課題解決に向けて話し合う時間を設けた。
- ・学年や学校全体で取り組む必要のある課題については、取組を提案し、組織として取り組んだ。
- ・全校で取り組む学習規律の確認や生徒指導上の校内ルールの徹底についての提案を行った。
- ・後期には、学習内容の定着状況を受け、教務部学力向上担当者と連携し、専科教員が中心となり、学力補充の時間を確保し指導を行った（図1）。

【学力補充の取組】

指導内容① …………… 算数科及び理科の問題練習

取組期間 …………… 11月～12月 15分間

指導に当たる教員……… 専科4名 通級担当3名

指導内容② …………… 第4学年児童への九九定着

取組期間 …………… 11月～1月 給食準備中

指導に当たる教員……… 専科4名



図1 指導の様子

④ 【教師の負担軽減】

- ・本校は、第5・6学年全10学級であることから、理科授業に関し、一部学級において担任が担っているため、教科担任制推進教員が担当学級だけでなく学年全体の理科授業のサポートを行った。
- ・学年全体として児童の学習内容の理解度・定着度の向上を図るとともに担任による理科授業実施の際の負担軽減を図った。
- ・第6学年「月と太陽」では、教科担任制推進教員が自作した教具を全学級が使用できるように準備した（図2）。
- ・第6学年の理科は、薬品の準備や実験後の薬品処理等に時間がかかる単元が多いため、濃度を適切に調整したものを準備して反応の確認が容易になるようにし、担任による実験がスムーズに進むようにした。
- ・事前事後の準備に時間を取ると予想される実験については、空き時間を調整し、計6時間の授業を担当した。



図2 第6学年「月と太陽」教具



<成果>

② 【多面的な児童理解】

- ・全校で取り組む学習規律の確認や生徒指導上の校内ルールの徹底についての提案を行ったことで、一貫した指導につながった。
- ・専科教員が中心となり行った学力補充の取組では、授業外での児童の様子が分かるとともに、日頃授業を通して関わっている児童だけでなくこれまで関わりがほとんどなかった児童と新たな対話が生まれ、多面的な児童理解が深まった。
- ・いろいろな先生に声をかけられ励ましてもらえる機会が増えることで、児童の自信や自己肯定感を育むことを促した。
- ・短時間でも毎日行うことで、児童は達成感や継続の大切さを感じることができた（図3）。
- ・指導者側も他学年の児童との関係性を深めたり、担任を含めた教師間での児童の情報共有を図ったりすることにつながった。

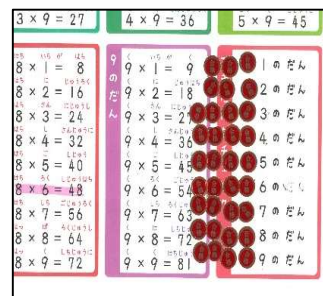


図3 合格シールが貼られた九九カード

④ 【教師の負担軽減】

- ・教具については、単元によっては不足することがあったため、加配教員として準備した教材・教具を担当学級以外の担任と共有できるようにした。
- ・従来、担任が行ってきた教材・教具の作成、薬品等の授業準備を教科担任制推進教員が担うことで、担任に時間的ゆとりが生まれ、他の担任業務に充てる時間の確保につながった。

<課題>

⑤ 【教師の負担軽減】

大規模校においては時間割の編成が複雑になるため、各学年の時間割編成の担当者にとっては毎週の週日程の調整に時間を取られ、負担になっている。

<対策>

⑤ 【教師の負担軽減】

これまで各学年の調整担当者が、各専科教員とそれぞれに調整を行ってきたが、専科グループに調整担当者を置き、週日程調整表（図4）を活用することで、効率化を図る。

図4 週日程調整表